

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 壹番館 )

事業所番号	0671700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1024番地		
自己評価作成日	令和 1 年 8 月 4 日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「大切なひとに笑顔と安らぎを」～その人らしい活き活きとした暮らしを支えます～の理念のもと、家庭的な環境の中で入居者様や家族様とのコミュニケーションを多くとるよう心掛け、信頼関係を大切にしています。また、入居者様1人ひとりを理解し、自分のペースで安心して生活ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 9月 24日	評価結果決定日	令和 元年 10月 9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から田園風景が見渡せ季節感あふれる環境のもと、解放的で家庭的な雰囲気の中で過ごす利用者の顔には穏やかで安らぎある表情が窺え、職員との信頼関係ができていことを実感します。隣接する同法人の介護老人保健施設長による認知症研修が年数回行われ、利用者を理解し馴染みの関係づくりを大切に、家族等と常に連絡を取りながら安心して過ごせる暮らしを提供しています。地域との交流も行事を通して活発に行われ、近くの小学校の活動を間近にして元気をもらっています。また買い物やゴミ出し、テラスでのお茶会など日常的に外に出る機会を設け、個別ケアにも取り組みながら自由な暮らしを支えている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にグループホームとしての役割りを反映した独自の理念がある。各ユニットの玄関と事務所内に掲示したり、職員一人ひとりが常に身につけているネームプレートに入れて持ち歩き、理念に対する意識を高めるようにしている。	家庭的な雰囲気と馴染みの関係づくりを大切にして、職員は日々の関わりを通して利用者が言葉を掛けてくれたり穏やかな表情を見せてくれることに喜びを感じ、信頼関係を深めながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する小学校から案内をいただき、運動会や相撲大会を見学したり、地区行事のスポーツフェスティバルや文化祭に参加している。また施設行事の夏祭りには地区の方を招待し交流を図っている。年1回利用者様と職員で地域のゴミ拾いを行っている。	地域行事での交流は恒例となっており案内をもらって積極的に参加している。スポーツフェスティバルでは車いすの方も競技に参加して地元住民との熱戦を楽しみ、毎年学校で収穫した米とりんごを届けてくれる小学生の訪問も嬉しい一日となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、スライドにて各ユニットの活動状況等を報告している。また利用者様や家族様、行政や地区の代表者の方に様々な意見をいただきながら、サービスの向上に努めている。	新たに地域包括支援センター職員と民生委員の参加があり、各ユニットの活動をスライドで見入居前より表情が笑顔になっていることや季節を感じられる環境が良いなど様々な意見・感想をもらっている。また議事録は家族等に送付し共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者に運営推進会議の委員になっていただき、定期的な情報交換を行いながら、協力関係が築けるように努めている。	運営推進会議に福祉課と地域包括支援センター職員に出席してもらい、互いに情報交換しながら事故報告や疑問点などを相談して良好な協力関係を築いている。また市の研修会に管理者や職員が参加して情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外出できるようにしている。また、身体拘束についての研修会を開催したり、委員会を設置し身体拘束についての正しい理解に努めている。束縛のないケアを実践している。	同法人の介護老人保健施設長による認知症研修が年に数回行われ理解を深めると共に、抑制したりする言葉の拘束にも気を付けている。開錠して束縛感のない雰囲気が利用者に着きと安らぎある表情をもたらし、各ユニット協力しながら安全な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての正しい理解を学ぶ為、研修会の開催や委員会活動を通じて定期的に話し合いの機会を持ち、啓蒙に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の詳細については、理解不足な所があるため、研修会に参加するなどし、継続的に学習機会を持ち、理解をしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり説明を行うようにし、随時質問等ないか確認しながら契約の締結を行っている。解約の際も同様に十分に話をし同意の上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や各ユニットの玄関に意見箱を設置している。その他にも運営推進会議時などで意見や要望を伺っている。また年1回利用者様や家族様にアンケートを実施し、いただいた意見などが職員全員が共有し解決に向けた検討を行っている。	面会時には近況を報告して家族等からも話を聞き、意見・要望は申し送りや記録を通して速やかに対応している。担当職員からは3か月毎の様子を写真とコメントを添えて送付し、アンケートでも満足度を確認しサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回全体会議とユニット会を開催し、職員の意見が反映する体制を作り、話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。「山形いきいき子育て応援企業」の認定と子育てサポート企業として「プラチナくるみんマーク」を取得している。また研修会の参加費や資格取得費用を事業所で一部負担している。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修や部門毎に年間計画をたて、研修会を設けている。また、外部の研修会にも参加しやすいよう配慮している。採用時には、新人研修を行い理解を深めてもらっている。	管理者は職員になるべく多くの研修に参加することを奨励している。受講後は報告書と共にミーティングで伝達講習をして共有し事業所全体のスキルアップを図っている。また法人では働き方改革に取り組み育児休業などの環境整備に力を入れている。	働きやすい環境も整い研修機会もあることから、これからも職員の学ぶ意欲が高まるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協会に加入して定期的な研修会や交換実習に参加し、他事業所の方と交流を図りながら意見交換を行っている。管理者は、他事業所の運営推進会議に参加し、交流を行いサービスの質の向上に努めている。	グループホーム連絡協議会の会議や研修で他事業所と交流を図りながらサービスの質向上に努めている。交換実習が初めての職員を対象に自分が学びたい所に力を入れている事業所を選んで参加してもらいサービスや業務に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に事前面談を行い、本人様のニーズを把握するように努めている。また職員間で事前に情報共有したうえで対応し、不安の軽減を図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始までの間に、これまでの経緯や不安、要望について十分に話を聞く機会を設け、話しやすい関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の状況を把握し、意向を確認しながら適切な支援を提供出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にも掃除や洗濯など出来る事を見つけ、毎日の活動の中で一緒に行い、支え合って生活出来るように関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ定期的に状況報告し、面会時には居室等で本人様との時間を大切に過ごしていただいている。本人様の思いや家族様の思いなど一緒に考え共に支え合っていけるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みがある人との面会や、自宅への外出等で本人様が関係を継続できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きな場所で過ごしていただいているが、利用者様同士の関係性も把握しトラブルにならないよう配慮をしている。皆で過ごす際は、職員も一緒に加わり利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、本人様・家族様の希望があれば相談や支援を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を聞き、それぞれの想いを把握し、希望に添えるように努めている。困難な場合は、家族様へ今までの生活の様子などを聞いて参考にしていく。	普段の関わりの中で利用者のちょっとした行動や言動をよく観察・傾聴して、思いや意向の把握に努めている。気づいた事は申し送りや日々の記録で職員間の共有を図り、生活歴なども踏まえながらその方に合ったケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時に本人様や家族様から情報収集し一人一人の生活歴を把握し、馴染みの暮らし方ができるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の過ごし方、体調や心身状態などを職員が声掛けしながら見守り、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンス、モニタリングを行う事で利用者様の現状に応じた介護計画を作成している。また、本人様、家族様の意向を確認しながら変化に応じ見直しを行っている。	本人と面談してやりたい事や好きな事、生活状態での問題点などを見出し、それに基づいた暫定プランを担当者会議で検討して介護計画を作成している。担当者は3か月ごと現状を把握し、変化に伴い見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日常生活の様子、食事・排泄チェック表で気づきや実施などを個別に記録し、職員間で情報を共有して支援を行い介護計画の見直しに活かせるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの受け入れを行ったり、近くに小学校や保育園があり慰問や行事への案内があるため定期的に交流を図っている。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように家族様と協力している。通院が困難な方については、かかりつけ医から往診に来ていただき、協力体制を築いている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に家族同行で受診し、通院が困難な方はかかりつけ医の往診や往診専門医による受診体制で、医療情報は家族等と共有している。法人の看護師に24時間対応で相談に応じてもらっている。薬は利用者一人ひとりの容器に準備し、服用済みの袋はチェックしてから捨てるようにし、誤薬防止に努めている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調不良時は、随時看護師に報告相談し指示をあいでおいて、その都度受診や看護を受けることができるよう支援している。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、本人様・家族様が安心して治療出来るように、主治医や担当看護師へ情報提供を行っている。入院中は面会に行ったり、家族様と情報共有し状況把握に努め、病院関係者と相談できる関係作りを行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応の指針を定め、家族様から同意をもらっている。状態変化に合わせて、本人様や家族様の意向を確認しながら主治医との連携を図り、今後について十分に話し合いを持つようにしている。</p>	<p>重度化した場合における指針を策定し、家族等とは都度話し合いがもたれている。看取りの希望がある場合は同意書を交わし、職員はマニュアルや研修を積んで、医療連携のもと、穏やかな最期に寄り添えるよう取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、利用者様の急変や事故発生時に備えて、勉強会を開催している。しかしスタッフ全員が実践力を身につけているとは言えない状況のため、今後も継続的に研修会などに参加する必要がある。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地区区長、消防団の方からも参加していただき利用者様の誘導をして頂いている。避難経路や誘導方法、消火器の使用方法などの確認も行っている。	非常災害時対応マニュアルを地震・火災・暴風雨等それぞれ定めており、自衛消防隊を編成している。今年度予告なしの訓練を実施し、緊張するなか日頃の訓練成果を活かして混乱なく行われ、地区長や消防団員も参加し協力体制ができています。	今後さらに、外部の協力を貰う際の避難誘導方法や職員による毎日の火気点検、非常持ち出し品の確認などに期待したい。	
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した声かけや、プライバシーに配慮した対応の重要性を理解しケアするよう努めている。	職員は利用者一人ひとりのこれまでの暮らしを理解し、理念にもある笑顔と安らぎを与えられるよう尊重した言葉掛けで支援している。接遇委員会では毎年職員から接遇標語を募集し、選ばれた標語を掲示し職員一人ひとりが自分の行動の振り返りとしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、自己決定が出来るような場面を作り、本人様の思いや希望を表せるよう支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、天気のいい日は散歩をしたり、職員と一緒に買い物へ行かれたり、希望があれば、可能な限り希望に添えるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、馴染みの美容室に行けるよう支援している。また、身だしなみについては、自尊心に配慮し声かけするよう心がけている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きやお茶淹れの準備など出来る事を分担し、食後は職員と一緒に食器の片付けを行っている。食事の際は各テーブルに職員も入り、会話をしながら楽しく食事できるよう努めている。	食事は3ユニット毎に献立を立てて、利用者と一緒に買い物に出かけ、一緒に作り、職員も一緒に食べることを大事にしている。事業所の畑で採れた野菜が彩を添え、ユニットそれぞれで助け合い楽しい食事となっている。また気分を替えてテラスでのお茶会や芋煮会を催して喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を考えて提供している。1日の水分量を記録し、水分量が少ない利用者様には、こまめに声掛けをして水分を摂取していただくようにしている。水分摂取困難な方には、声掛けしながら介助している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、口腔ケアを行っている。自力で出来る利用者様には側で見守り行い、介助が必要な利用者様には声掛けをし、職員が口腔ケアを行っている。夜間は義歯の消毒をしている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、定期的に声掛けや誘導することで、トイレでの排泄習慣が身につくよう支援している。失禁した際は、自尊心に配慮し介助している。	早目の声掛けと24時間誘導チェック表の活用で日中帯はほとんどの利用者がトイレで排泄できている。誘導時や失禁があった場合などの声掛けに配慮し、利用者の尊厳を大事にした取り組みをしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、個々の排便状態を把握している。排便がない時には、水分を多く摂取していただいたり、個々の内服薬にて状況に応じた排便コントロールを行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の希望にて、毎日入浴している方もいる。入浴拒否がある方にも、職員が工夫しながら対応し最低週2回は入浴実施している。個々のADLに合わせて、浴槽をまたぐのが困難な利用者様はリフト浴を使用していただいている。	最低でも週2回の入浴を実施しているが、希望があれば毎日でも対応している。利用者それぞれが好きな入浴剤やシャンプーを準備し、個浴でゆっくりくつろいでいる。腰高の浴槽を低く直し、リフト浴なども備え、利用者の状態に合わせて利用し安全に入浴できるよう配慮している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が自由に過ごしており、居室や和室で休まれたり、その方の生活習慣に応じた休息がとれるように支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当が責任を持って服薬管理をしており、薬の内容や副作用等の理解をし、職員間でも確認をしている。薬変更あり、その後の症状の変化時には主治医へ状況報告行い迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動等、一人一人が役割を持っており、積極的に参加されている。買い物や散歩、歌好きの方には録画した歌番組など提供し、それぞれに合わせた楽しみや気分転換の支援をしている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って、外出の楽しみや行事への参加、家族様に会う等出来るだけ支援している。希望によっては、家族様へ協力していただけるように連携を図っている。	個別ケアを大事にし、利用者の要望に沿った外出を心掛けている。毎日の散歩を兼ねてゴミ捨てに出かけたり、畑に行くなど、また気分転換にリビング続きのテラスに出て思い思いに過ごしている。各ユニットでは法人の車で買い物やドライブ等に車椅子の方でも出かけられるよう取り組んでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持してる人はいないが、買い物時や外出時に本人様が支払う場面を作ったりしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があった際は、職員が家族様へ電話をし、本人様と話をさせていただいている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所が分かりやすいように、男女別に背丈に合った貼り紙をしている。見やすい位置にテレビやカレンダー、時計を設置している。季節や行事に合わせた装飾や花を飾ったりしている。	事業所の周りは田んぼが広がり、四季の移ろいが部屋にいながら感じられる環境にある。リビングは食事のテーブルやソファ・椅子が随所に配置してあり、温湿度管理を行い、利用者はそれぞれ好きな居場所で寛いでいる。畳コーナーは障子戸で掘りごたつを設えて談笑の場になっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が過ごしたい場所で過ごせるように配慮している。和室を利用し、気の合う利用者様同士でゆっくり過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が使い慣れたものを自宅から持ってきていただき、居心地の良い空間にしている。	各居室にはエアコン・整理ダンス・ベッド・押入れ・洗面台が備え付けてあり、障子の窓から柔らかな光が入っている。利用者は使い慣れたもの、馴染みのものを持ってきて安心して暮らしている。居室掃除は利用者とスタッフが一緒に行い清潔に努めている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂など手すりが設置しており、可能な限り自力で行えるよう声かけ見守り行っている。また場所の確認がしやすいようにトイレの案内なども見やすいように貼っている。		